

## ホームで相談に応じている身体状況

|             |
|-------------|
| 重度の認知症      |
| ガン(※1)      |
| 難病(※2)      |
| インスリン注射     |
| 経鼻経管栄養法     |
| 胃ろう         |
| 食道ろう        |
| バルーンカテーテル   |
| 膀胱ろう        |
| 人工肛門        |
| 在宅酸素        |
| 経皮経管胆道ドレナージ |
| 静脈注射        |

※1：ステージレベルより応相談。  
※2：パーキンソン、脊髄小脳変性症などの特定疾病。ただし、既存のご入居者の状態やホーム内の状況によって若干異なる場合もございます。詳しくはホームへお問い合わせください。

「舞浜俱樂部」にご入居いただければ、最期まで自分らしくご自身が望む生活を送ることが出来ます。ケアサービス課のチーフ看護師・安西光子さんからは開口一番、そんな頼もしい言葉が出てきました。24時間の看護スタッフ常駐、協力病院である「浦安中央病院」による週1回の訪問診療、

# スウェーデン式ケアの導入により 医療と連携した「心」に寄り添う介護の実現も！

## 福祉先進国のよさを ご入居者のケアに

さらに状態が思わしくないときは、同病院に24時間体制で受け入れ可能な連携を組むなど、医療における基盤が手厚いホームです。しかし、それだけではありません。チーフ看護師の安西さんは「舞浜俱樂部」との出会いに



- 豊かな緑に囲まれた美しい欧風建築の建物。室内は、あたたかみのある純和風でコーディネートされています。
- 安西さんをはじめ看護スタッフ間の密な連携により、24時間常駐のケアでご入居者をしっかり支えています。

入居時費用/980万円~2,960万円  
(返還金制度:入居時80万円償却、後5年月額引均等償却)  
※月払いプラン・一年契約プランあり。

月額利用料/150,750円~506,250円  
(自立の場合63,000円増額)  
内訳…家賃0~210,000円、管理費78,750円(一人入居)・152,250円(二人入居)、食費72,000円(3食30日換算・一人当り)

実費となるもの/水道光熱費、電話代、消耗品、介護保険1割負担額、医療費

□所在地/〒279-0023 千葉県浦安市高洲1-2-1 □交通/JR京葉線「新浦安」駅徒歩15分又は、「新浦安」駅下車東京ベイシティ交通バス10・15・19番系統約5分、「東京学館前」下車徒歩5分 □開設日/平成21年5月2日 □権利形態/利用権方式 □支払い方式/選択方式 □介護保険/千葉県指定介護保険特定施設(一般型特定施設入居者生活介護) □事業所番号/1273200814 □入居時要件/入居時自立・要支援・要介護 □建物の構造/鉄筋コンクリート造3階建て(地下1階) □土地建物の権利形態/ともに賃借 □介護居室/全室個室 総室数76室(定員81名)面積23,625㎡~43,793㎡(2人部屋28,096㎡~43,793㎡) □介護体制/1.5:1以上(週40時間換算で60人うち要介護者対応60人)夜間(17時~翌10時)最少時6人 □協力医療機関/浦安中央病院(診療科目/外科・内科・整形外科・胃腸科・循環器科・脳神経外科・皮膚科・形成外科・肛門科・泌尿器科)、まきの歯科医院(診療科目/歯科) □事業主体/株式会社 舞浜俱樂部

問い合わせ  
☎ 0120-621-406

FAX 047-352-7302  
info@maihamaclub.co.jp  
http://www.maihamaclub.com/



総支配人グスタフ・ストランデル氏の著書「私たちの認知症」を5冊プレゼントいたします。詳しくはP64をご覧ください。

「舞浜俱樂部」では、コンチネンス(排泄ケア)チームを立ち上げています。ケアの現場で「おむつ」を使うことに疑問を感じるスタッフは、どのくらいいるでしょうか。現場では、おむつは確かに必需品です。しかし、おむつをあてがわれた瞬間、「トイレに行く必要がない」と、意欲

## 一人ひとりの尊厳を守る 徹底した個別ケア

「舞浜俱樂部」では、コンチネンス(排泄ケア)チームを立ち上げています。ケアの現場で「おむつ」を使うことに疑問を感じるスタッフは、どのくらいいるでしょうか。現場では、おむつは確かに必需品です。しかし、おむつをあてがわれた瞬間、「トイレに行く必要がない」と、意欲

が薄れ寝たきりになってしまいうご入居者も多いのです。そうなる前、スタッフ側の都合で、業務の一環としておむつ交換が行われがちになり「す」と安西さんは指摘します。しかし、スウェーデンを始めヨーロッパの介護先進国で行うコンチネンスは、徹底して一人の人間の尊厳を守ったケアを行うのだそうです。そうした役割を担うのが、「舞浜俱樂部」が導入するコンタクトパーソンシステム。これは、総支配人のグスタフ・ストランデル氏が掲げる理念を体現するもの。ご入居者一人ひとりに、メインとサブの2人のスタッフが

が、「舞浜俱樂部」が導入するコンタクトパーソンシステム。これは、総支配人のグスタフ・ストランデル氏が掲げる理念を体現するもの。ご入居者一人ひとりに、メインとサブの2人のスタッフが

「このシステムにより、医療依存度の重い方でも、高いQOLを実現することが出来ます。そうしたケアにつながっていくためのコンチネンスであり、コンタクトパーソンなのだ」と、佐藤光男施設長と安西さんは強調します。個人の意思を尊重し、尊厳を守ることを追求した「舞浜俱樂部」でなら、医療と連携した心のこもったケアが受けられそうです。

「舞浜俱樂部」では、コンチネンス(排泄ケア)チームを立ち上げています。ケアの現場で「おむつ」を使うことに疑問を感じるスタッフは、どのくらいいるでしょうか。現場では、おむつは確かに必需品です。しかし、おむつをあてがわれた瞬間、「トイレに行く必要がない」と、意欲

「このシステムにより、医療依存度の重い方でも、高いQOLを実現することが出来ます。そうしたケアにつながっていくためのコンチネンスであり、コンタクトパーソンなのだ」と、佐藤光男施設長と安西さんは強調します。個人の意思を尊重し、尊厳を守ることを追求した「舞浜俱樂部」でなら、医療と連携した心のこもったケアが受けられそうです。

「このシステムにより、医療依存度の重い方でも、高いQOLを実現することが出来ます。そうしたケアにつながっていくためのコンチネンスであり、コンタクトパーソンなのだ」と、佐藤光男施設長と安西さんは強調します。個人の意思を尊重し、尊厳を守ることを追求した「舞浜俱樂部」でなら、医療と連携した心のこもったケアが受けられそうです。



ケアサービス課のチーフ看護師・安西光子さん。